

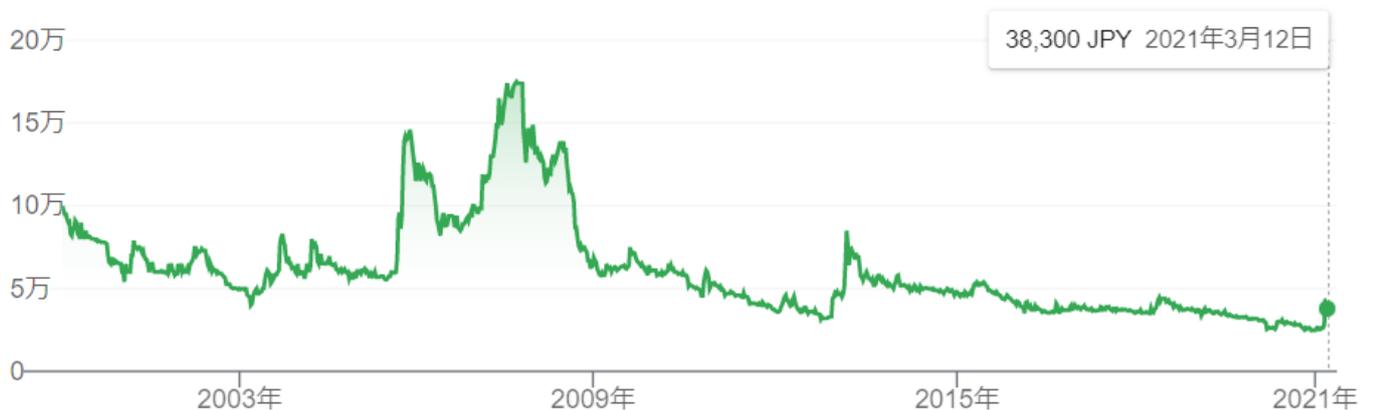
2001年の本。

この日本銀行は四割が民間株主である。新聞の証券面に載っている店頭登録株の金融欄を見ると、ちゃんと「日銀」という名前が出ている。もちろん値段がつけられていて、いまは一株七万円くらい（二〇〇一年六月現在）で取引されている。バブル時の株価は七〇万円くらいだったが、九七年の山一証券自主廃業の際に日銀特融を三兆円大放し、九万五〇〇〇円まで値が下がってしまった。

日銀といえども勤務評定をされているわけで、日銀特融をたくさん出して経営状態が危うくなれば、当然株価が下がる。

それと同じで、日銀が発行している日本銀行券の信用がなくなっても不思議はない。一般の企業にたとえば、会社の信用不安が高まってくると、手形を受け取ってもらえなくなるようなものだ。

法的には、日銀法のなかで日本銀行券の無制限強制通用力が認められており、日本国内で日銀券の受け取りを拒否することはできない。



~~~~~

ハレとケとは、柳田國男によって見出された、時間論をともなう日本人の伝統的な世界観のひとつ。民俗学や文化人類学において「ハレとケ」という場合、ハレ（晴れ、霽れ）は儀礼や祭、年中行事などの「非日常」、ケ（褻）は普段の生活である「日常」を表している。ハレの場においては、衣食住や振る舞い、言葉遣いなどを、ケとは画然と区別した。

~~~~~

職業は手段であって、最終目的ではない。

...

だから、「自分の能力を発揮できる仕事に就きたい」と考えるのは多くの場合間違いで、仕事の能力は後から自分で開発するものである。はじめから備わっているも

では、たかが知れている。スタート台にはなるが、それだけで成功するほど世の中は甘くない。

結局のところ、好きなことを仕事にするのにいちばん大切なことは、志と意志で、本当に心からこうありたいと思ったことは一生続いていくものである。

外国が正直に元金を返済するかどうかは危ないのが実情だ。なぜなら、日本は取り立てに行く実力がなからで、自衛隊を海外派兵して取り立てに行ったりはしないと当人がいっているのだから、借りている側は安心して踏み倒せる。

ロシアや中国がやたらにお金を貸せというのは、返す気がないからだ。

日本人はこんなことは当たり前だと思うかもしれないが、世界銀行は「元金そろえて期日までにきちんと返すのは日本だけです」と驚いたそう。

日本は借りたお金をきちんと返す、世界でもめずらしい国なのだ。